これまでに寄せられた「市長への手紙」のご意見と回答を紹介します。今後も市政に関する提言をお待ちしています。

定員オーバーで抽選を行っている三歳児のクラスを増やして欲しい

現在、市立幼稚園（六園）では、全国的な少子化により各園の総園児数は、定員割れの状態が続いています。平成十六年度入園児募集について、各園の定員に対する応募の状況は、最も多い園でも六二％という低い割合になっています。しかし、三歳児クラスは、定員を二十名としている関係上、四つの幼稚園で定員を超える応募がありました。

学級定員は、文部科学省の幼稚園設置基準により、一学級の幼児数は原則、三十五人以下とされています。四・五歳児は三十五人学級としていますが、三歳児については、発達段階を考慮し、安全面にも十分配慮のうえ、一人ひとりの個性を大事にする充実した保育が一層必要になることから、二十人以下とすることを市立幼稚園園則で定めているところです。

現在行っている抽選での入園児決定は、最善の方法とは言えませんが、応募者全員が入園できる制度をとると、幼稚園の学級数が増える可能性があり、新たな職員採用や学級施設増など、大幅な予算増の問題が生じることが考えられることから、全園的に定員割れが続くなかでは難しいと思われます。

しかし、三歳児保育については、市民の皆さんのニーズや保育の状況を見ながら、よりよい在り方を検討していきたいと考えています。

問合せ　学校教育課　33－6847

日奈久場外馬券場誘致に関しては、慎重な議論を重ねたうえで決定して欲しい

日奈久埋立地への場外馬券場（ウインズ日奈久）の誘致については、新聞などで報道されているとおり、現在、日奈久校区の十五町内のうち十四町内が推進へ同意している状況です。また、市の経済団体からも、場外馬券場誘致の推進についての陳情が出されています。

しかし、ウインズ日奈久の誘致については、日本中央競馬会の監督官庁である農林水産省の承認が必要であり、農林水産省の場外設備の設置承認基準では、「設置場所やその周辺の影響が及ぶと思われる地域の町内会長または自治会長の同意が必要」とされています。そのため、一町内でも反対があれば設置の許可が下りないということになります。

市としては、本計画が日奈久だけでなく、市全体の発展のために、現実的かつ財政的にも、ぜひとも必要な計画であると考えていますので、今後も誘致者である地元期成会、進出者であるJRA、さらには誘致陳情を採択している議会や市の経済団体などとも協議しながら、進めて行きたいと考えています。

問合せ　企画調整課　33－4104

《市民コラム募集》

日ごろ感じていること、感激した出来事や心温まる話などを募集しています。原稿用紙三枚程度にまとめ、企画調整課広報広聴室　33－4101　32－2665へ

市長通信

『インド洋津波被災者へ市民の支援』

インドネシア・スマトラ沖大地震でのインド洋大津波被災者を支援するための音楽祭が二月十一日、やつしろハーモニーホールで開催されました。

本年一月から市民の有志と八代シティプロモーションセンターが一緒になって企画し、実施したものです。

音楽祭には、世界的にも有名な、熊本県出身のカントリーミュージシャン「チャーリー永谷」さん、フォークシンガーの「むたゆうじ」さん、アマチュアの女性シンガー「Jack in a box」の皆さんが、被災者支援のために物心両面から多大な応援をしていただきました。

今回の音楽祭には、市内五十の企業・団体から協賛金や寄付の支援もあり、会場には、五百名近い観客の皆さんに参加いただき、入場料に替わる支援のための募金が寄せられました。

募金総額は、三十四万五千円となり全額が日赤熊本県支部を通じて被災地に送られます。

今回の災害では、三十万人以上の人々が亡くなったり、行方不明となっており、孤児や生活の見通しがたたない人がたくさん出ているといわれます。全世界から支援の手が差し延べられていますが、今回、市民の皆さんの善意が、被災地の皆さんの大きな励ましとなることと思います。

中島隆利

「人口と世帯」は７ページに掲載しています。

編集と発行　〒866－8601
八代市役所企画財政部企画調整課広報広聴室　33－4101
印　刷　（資）緒方印刷所